
The confrontation

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The confrontation

【Nコード】

N0183D

【作者名】

ペロコ

【あらすじ】

confrontation「対決。ずばり、対決がテーマです。久しぶりにライバルな2人を書きました。キッドと新一です。そして、その対決シーンですが……。まだまだ文章力が足りない感じがしますね。これが今のうちの精一杯でした。ドキドキになっているのやら……。では、ライバルな2人を楽しんでいただけたら嬉しいです（*^_^*）

昼間、雲ひとつ無い秋晴れが広がっていた日の夜、やはり雲もなく、満天の星空と丸く輝く満月が浮かんでいる。
冷え切った空気も手伝ってか、いつも以上に星が綺麗に見える。

下を見れば、東都の街の様々な色の光が一面に広がり、キラキラと光っているにぎやかな夜。

怪盗は現れた。

ビッグジュエルばかり狙う、夜には似合わない白き戦闘服を着た怪盗は、“確保不能”と謳われており、
この夜も例外ではなく、警察は見当違いの方向を追いかけて行った。
まだ、建物の敷地内に追いかけるべき本人がいるというのに、怪盗によって欺かれ、警察の姿は消え去った。

……そう、警察は。

ところで怪盗は、その見事な手腕と、カリスマ性から“平成のアルセーヌ・ルパン”とも呼ばれている。それと、相対するように存在しているのが、“平成のホームズ”である。

高校生探偵にして、迷宮なしの名探偵と呼ばれる彼 工藤新一は、一時、全く姿を見せない時が続いていたが、ここ数ヶ月の間で再び登場し、数々の事件を解決に導いている。

そんな彼ですら、未だ勝てない相手こそが、“確保不能の大怪盗”すなわち怪盗キッドである。

今回の予告状を解読するようにキッド逮捕に燃える中森警部から頼まれたのは、3日前のこと。

警察で何日かかっても解けなかった難解なものを、たった1日で解いてしまった新一は、警部に大変気に入られ、現場に連れて来られた。

……そして今、予告された美術館にいるのだ。

その美術館の東側は、全面ガラス張りで、外の景色が見えるように

なっている。

その窓の外に、1人だけ追いかけてなかった警官がいた。

新一が声をかけようとして外に出た瞬間、彼は走り出し、そのまま駆けていく。

それを追いかけるように、新一もまた美術館の敷地から飛び出した。

追いつけるわけでもなく、離れるわけでもないスピードで走る警官は、東都の街中を走り、杯戸シティビルの中へと入っていった。

5秒程遅れて、新一も中に入り、追いかけて屋上へと向かう。

階段を駆け上り、屋上へ出る扉をバン！と開ける頃には、さすがに息を切らしていた。

正面には、静かに背を向けて佇む1人の警官。

いつかの汐留での出来事を思い出させる光景に、新一は思わずニヤリと笑う。

「こんな所に、呼び出してどういうつもりだ？ キッド」

「フッ……。久しぶりですからね」

そう言いつつ振り返り、一気に警官の服を取り去る。

「名探偵とこうして対決するのは……」

そこに現れたのは、風で白いマントをはためかせる怪盗キッドその人。

「お前、ワザとだろ？ あの前告状かなり難しくしたの」

「……」

「警部でも解けなかったら、オレのところを持ってくると踏んだんだ」

「……バレてましたか」

「バーロ！ んなことすぐ分かるよ！ いつもと違ったしな、予告状の難しさが。……何でこんなことしたんだよ？」

「名探偵の復活は、日々のニュースで拝見していましたが、私の現場には来てくださらなかったので、お誘いしたんですよ」

「オレは泥棒は専門外なんでね」

「冷たいですね……」

ワザとなんだろうが、手を目元にやる姿は、女性にも化けることができる怪盗なだけあり、すぐく様になっているのだが、今の雰囲気には合わず、かなり違和感を感じる。

「んなことより宝石、返せよ！」

「少々お待ち下さい」

怪盗はポン！ と右手で宝石を出し、そのまま頭上に翳す。

相変わらずどこから出てきたのかも、何をしているのかも気になるが、どこか幻想的な雰囲気で話しかけられない。

「ふう……。はい、よろしいですよ」

と、ポーンと1億は下らない宝石を軽く投げる。

新一はそれを受け取り、

「さて、それじゃ遠慮なく行くぜ？」

と、ベルトに手をかける。

そこに、

「新一！」

聞きなれた隣家の博士の声。

思わず振り返るも、そこには姿もなく、また騙されたことを悔しく思いながらも、前を向く。

「よそ見してたら危険じゃぞ！」

そこには、トランプ銃を構える怪盗の姿が。

しかし、よそ見をさせたのは怪盗の方ではないか。

だが、そんなところに突っ込む暇もなく、パシュツと音がして、新一が1秒前までいた所にトランプが突き刺さる。

しかし、避けたと同時に、新一はコナンの頃から愛用しているベルトからボールを出し、勢いよく蹴った。

……ものの、難なく避けられる。

くそつと舌打ちする間もなく、トランプはどんどん飛んでくる。
追いつめられ、後ろに下がるも、階段へとつながるドアにぶつかり
逃げ場を失う。

「さあ、どうする？ もう前の作戦は使えないぜ？」

そんなことは分かっている。

第一、パラグライダーが無いではないか。

「これで終わりだな、名探偵……」

パシユッとトランプが撃たれ、地面に突き刺さる。
すると、POM！ と煙が上がり、辺りは真っ白に。

「なっ……ゴホゴホッ！」

と、新一がむせている間に、怪盗は立ち去った。

煙幕が晴れた頃、屋上には当然怪盗の姿は見当たらず、残っていたのは新一と……一枚のカード。

「くっそ……だから嫌なんだよ、アイツ……ん？」

カードを手に取り、眺めて見れば、それは怪盗からのメッセージ。

『今宵の勝負は

私の敗北

また次なる勝負で

お会いしましょう

怪盗キッド

P・S・麻醉銃で撃たれてはかないませんので』

「バレてたのか、オレが狙ってたこと……」

そう、探偵は密かに狙っていたのだ。

これもまた、コナンの頃から愛用している麻醉銃を撃つ機会を。

博士に改良してもらい、3本連射まで可能になった腕時計型麻醉銃を撃つ機会を。

しかし、使用する前に怪盗に逃げられたのだが。

「だが、オメエが負けを認めるのは監獄の中だぜ、キッド！ そして、そこに連れて行くのは」

このオレだぜ？ 光栄に思えよ？

今宵の勝敗はひとまず保留。
今後、どのように決着が着くのかは

空に輝く満月だけが知っている。

（後書き）

【逃げちゃったよ、怪盗さん！】（タイトル？）

こんにちは、ペロコです。お読みいただきありがとうございます。最近急に寒くなりましたが、体調は大丈夫ですか？風邪など引かれないようにお気をつけ下さいね。

久々にライバルな2人が書きたくなったので書いてみたお2人。コナンさんにするか迷ったのですが、新一でだって、夜出歩けないしね、1年生じゃ。

このお話のテーマ「対決」。勝敗は、こんな感じで逃げました。スイマセン。

「新一！」と呼んだ声、蘭ちゃんにするか迷った（また？）んですが、新一のいるところが分かるわけがない。でも、博士なら、（まだ新一が持っているという設定で）探偵バツがあるじゃないか！……ってことで博士に決定。

怪盗さんがメッセージを残したのは、あんな失礼な帰り方をしたからです。「これでは怪盗紳士の名が廃る！」っていうことなんです。

また、怪盗さんが何で麻醉銃で狙ってることに気づいたのかは……『謎は謎のままにしておいた方がいいんだぜ？』です（爆）つまり、そこは突っ込まないで下さい。

この話のモデル？ は、もちろん『銀翼』です。これを書いてて不安に思ったのは……『キッドsideで書けんのか？』ってことです（笑）

今日は三人称でしたが、キッドsideじゃもちろん快斗キッドの一人称。
……S気味になるかも（滝汗）

なぐんで、まだまだ先のことをうだうだ悩んでいるペロコに、ぜひ読んだご感想を！ もちろん、評価していただけたら大変嬉しいです

毎回同じ事書いてると思われるかもしれませんが、本当に気になっているんです。うちの話は、みなさんに楽しんでいただけているのかって。

では、またしても後書きがこんなに長くなってしまいました、これからもよろしくお願いします！

実は今、また違う話を執筆中だったりします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0183d/>

The confrontation

2010年10月9日05時26分発行